

CSRレポート 2010

CONTENTS

■ 経営者メッセージ	2
■ コンプライアンスの遵守	3
■ 環境貢献活動	4
■ 働きやすい職場環境の整備	6
■ 社会貢献活動	7
■ 社会を支える製品と技術	8

編集にあたって

発行目的と編集方針

本レポートは、東洋電機製造のCSR(企業の社会的責任)に対する基本的な考え方や取り組みの進捗を分かりやすく開示することを目的に発行しています。レポートの編集にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン 2007年版」、SRI(社会的責任投資)に関するアンケート項目などを参考にし、ステークホルダーの皆様および東洋電機製造にとって重要性が高いと思われる情報を選定して掲載しています。

対象範囲

東洋電機製造株式会社

対象期間

2009年度(2009年6月～2010年5月)を中心に、一部同期間の前後の情報も含まれています。

発行時期

発行日: 2010年7月(次回発行予定: 2011年7月)

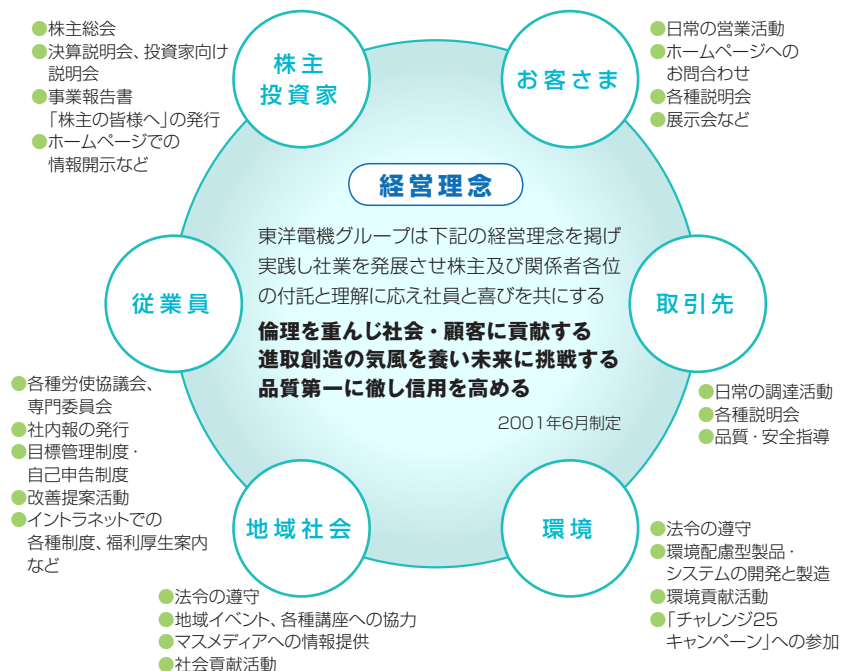
参照ガイドライン

「環境報告ガイドライン2007年版」(環境省)

お問い合わせ先

東洋電機製造株式会社 企画部 広報・IR・CSRグループ
TEL : 03-3535-0633
e-mail : kikaku@toyodenki.co.jp

東洋電機製造を取り巻く ステークホルダーとのコミュニケーション





代表取締役社長

土田 洋

中期経営計画「チャレンジアップ プラン」に基づいて、 本業を中心としたCSR活動を一層進めてまいります。

CSRレポート発行に寄せて

この度東洋電機製造では、CSR（企業の社会的責任）への当社の取り組みをステークホルダーの皆様にご覧いただくため、「CSRレポート」を発行しました。

当社は長年の間、鉄道車両用電機品や高効率の産業用モータ、インバータ、各種IT製品の供給を通じて、社会インフラの充実や省エネルギー・省資源化の進展に努めてまいりました。これら「本業を通じてのCSR活動」に加えて、生産拠点における環境貢献や社会貢献活動、さらには活力ある企業風土づくりへの取り組みについてご報告させていただくことで、当社への理解を一層深めていただければ幸いです。

「CSR」・・・それは経営の重要なキーワード

2009年7月に発表した当社の中期経営計画「チャレンジアップ プラン」には、「CSRへの取り組みの強化」を明記しています。私は「CSR」を経営の重要なキーワードと捉えており、人々が求める安全・安心で住み心地の良い社会を実現し、世界全体が持続的に発展するために、当社がどのように貢献できるか、わかりやすくステークホルダーの皆様にお知らせすることが必要だと考えています。また、同時に多くの方々の声に耳を傾け、それを経営に活かしたいと思っています。

当社ならではの「環境貢献」と「社会貢献」

まず「環境貢献」の分野では、当社生産拠点の様々な環境貢献活動が、持続的かつ積極的に実施されていることをご報告いたします。また、当社の製品やシステムが、様々な事業分野で活用されていることをあらためてお知らせいたします。（8ページ「社会を支える製品と技術」をご参照ください）

次に「社会貢献」の分野ですが、地域社会への貢献をベースとした試みをご紹介します、今後一層地域の皆様に親しまれ共生できる企業となるよう、皆様のアドバイスを頂戴できればありがたく存じます。

「活力ある企業風土づくり」に向けて

私は社長就任以来、従業員が自らの能力を最大限に発揮し、様々な分野にチャレンジできるよう、「活力ある企業風土づくり」への一層の取り組みを進めております。従業員が一人となり、情熱を持って社業に打ち込むことで、中期経営計画「チャレンジアップ プラン」に掲げた経営目標を達成できる環境づくりを図っております。

東洋電機製造は、これらの活動を通じてステークホルダーの皆様との確かな信頼関係を構築し、社会への責任を一層果たしてまいります。今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

コンプライアンスの遵守

当社では経営の根幹をなす「法令遵守」や「企業倫理の維持」のため、全社的な取り組みにより意識浸透を図り体制を強化しています。

● コンプライアンスの遵守のための仕組み

当社では法務コンプライアンス部がコンプライアンス遵守体制の整備及び推進を担当しています。具体的には①コンプライアンス研修マスタープランに基づく研修の企画立案と実施、②内部通報等によるコンプライアンス上の個別事案対応を行っています。また、専任担当部署である法務コンプライアンス部とは別に、「事業所別コンプライアンス担当者」を選任してコンプライアンス活動が各事業所においてボトムアップ的に行われるような仕組みを作っています。

コンプライアンス教育研修

当社ではコンプライアンス研修マスタープランに基づき毎期テーマを決めて①経営階層向け集合研修、②管理専門職向け集合研修、③一般職向けビデオ研修を実施しています。

また、2009年10月はコンプライアンス強化月間イベントとして、①インサイダー取引防止セミナー、②知的財産管理セミナー、③女性社員が社会的ハンディキャップを感じる

ことなく働くことが出来る職場についての意見交換会、等を開催し、併せて役員及び全従業員を対象にコンプライアンス一斉点検を実施しています。

コンプライアンスの遵守状況

当社は2008年10月に公正取引委員会から札幌市発注の特定電気設備工事の入札に関して独占禁止法違反による排除措置及び課徴金納付命令を受けた反省を踏まえ、このような法令違反を二度と繰り返すことがないように「コンプライアンスの手引き」を改定するとともに、常日頃からコンプライアンス遵守を意識付けるため新たに「コンプライアンスカード」を作成し役員及び全従業員に配布しています。

コンプライアンスカード

- 職場において、不祥事やルール違反を発見しながら、見過ごしていませんか
- 業務上の事故発生又はその恐れがあるのに、所属長への報告を怠っていませんか
- 基本的人権を尊重していますか。差別的言動、パワー・ハラスメント、セクシャル・ハラスメントと思われる行動はありませんか
- 業務上知り得た重要情報を不正に利用し、自己又は第三者のために利便を図っていませんか

上記のようなことに気が付いているけれども、あなたの立場で対応することが難しいために困っていませんか？
そういうときは迷わず内部通報制度によりご相談ください。

コンプライアンスカード



コンプライアンス研修

CLOSE UP ▶▶▶

社員全員参加のコンプライアンス活動に向けて

コンプライアンス活動は目的達成のために全員一丸となって行うという意識が醸成しにくい点に難しさがあると思います。そのため今まで以上に原理原則を大事にする企業風土づくりが必要だと考えています。コンプライアンス遵守が押し付けられたものとしてではなく、各々の発意がバランスよく合成された結果として達成されていると感じられるような体制を目指して活動を続けていきたいと思っています。



法務コンプライアンス部
部長 高瀬 伊佐己

環境貢献活動

当社は2009年6月に「環境理念」を制定し、環境配慮型製品の提供と環境保全への取り組みを経営の重要課題として推進しています。

環境理念

東洋電機グループは、地球環境保全への取り組みを重要課題に掲げ、持続可能な社会の発展に貢献します。

行動指針

「地球と人に優しい未来技術」により地球環境への負荷に配慮した製品およびサービスを提供していきます。

1. 環境に関する法規制などの要求事項を遵守します。
2. 製品の企画・開発・設計・製造・販売・使用および廃棄の全てのライフサイクル段階で、エネルギー消費の削減など環境負荷の低減に努めます。
3. 地球環境保全活動を継続して推進するシステムを確立し、実行します。
4. グループ内の啓発を通して、一人ひとりの意識向上を図ります。

2009年6月制定

● 「地球温暖化防止」への取り組み

今期の環境活動について

改正省エネ法に対応して全社のエネルギー管理体制を構築しました。温室効果ガス(CO₂)排出量の削減のために、以下のような活動を行っています。

①工場設備の低消費電力化

- 空調機ファン用モータ、排気ファン用モータをインバータ化しました
- 照明器具(蛍光灯、水銀灯)を高効率品に更新しました

これらの結果CO₂排出量は、2009年は1990年比で55%削減、生産高あたりのCO₂排出量(原単位)は38%削減されています。(図:CO₂排出量と生産高CO₂原単位の推移)

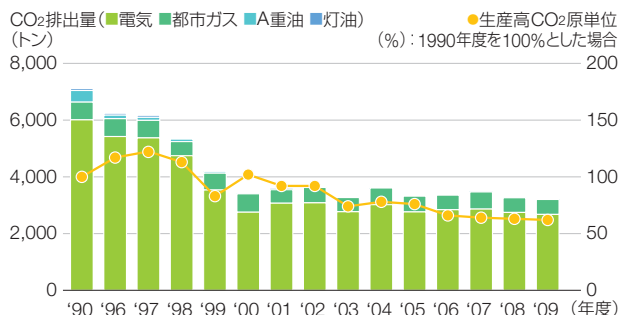
②「チームマイナス6%」から「チャレンジ25キャンペーン」へ

2007年から「チームマイナス6%」活動に参加し、引き

続き2010年からは、「チャレンジ25キャンペーン」に参加しています。各事業所に管理者・推進者を置き、以下のようなエゴで地球にやさしいライフスタイルの普及啓蒙に取り組んでいます。

- 夏季冬季のエアコン設定温度を適正に運用しています
- 離席時や昼休みの消灯とパソコン電源OFFを徹底しました
- ブラックイルミネーション(工場の社名表示を消灯)に参加しています

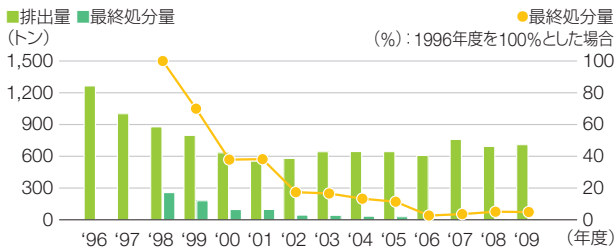
CO₂排出量と生産高CO₂原単位の推移



● 「廃棄物削減」への取り組み

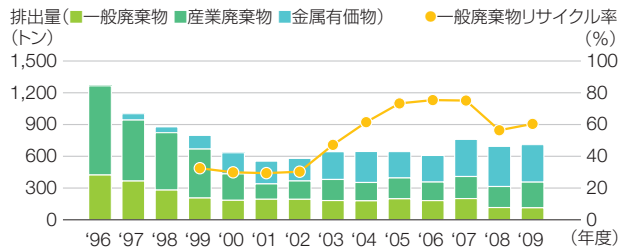
- 廃棄物処理ルールの徹底、金属くず分類の徹底、紙資源リサイクルの徹底などの活動の結果、最終処分量は2006年度以降、1998年度比で10%以下に減少しています。排出量は1996年当時1,200トン以上でしたが、近年は600～700トンで推移しています。

廃棄物最終処分量の推移



- 紙資源リサイクルの取り組みを2002年から始めた結果、リサイクル率は約30%から2007年には約75%にまで増加しました。

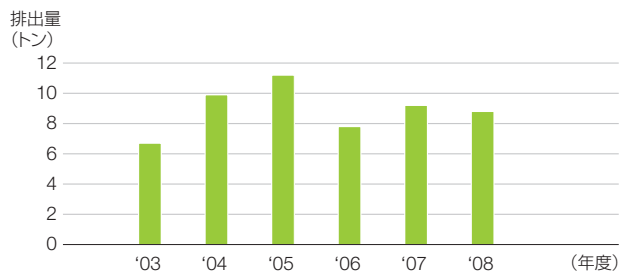
廃棄物・有価物排出量の推移



● 「化学物質管理」への取り組み

- PCB廃棄物はPCB特措法に則り適正な保管と届出を行い、処分を申請しています。
- VOC (揮発性有機化合物) の代替化や、溶剤の回収再利用などで廃棄量の削減を行っています。
- 今後は、グリーン調達を含め製品含有化学物質管理にも注力していきます。

PRTR(※)届出数値推移表



(※) ……化学物質排出量届出制度

CLOSE UP ▶▶▶

ISO 14001 全社取得への取り組みについて

当社はこれまでISO14001環境マネジメントシステムについて、生産拠点である横浜製作所、滋賀工場が各々独立したシステムを構築し活動してきました。一方、品質マネジメントシステムについては本社、営業拠点を含めた全社で一つのシステムの下で運用しており、お客様のより一層の満足を目指し総合的に活動を展開しています。このたび環境マネジメントシステムについても全社で一つのシステムとして再構築しました。これにより環境経営の徹底を図り、営業部門、管理部門を含めてこれまで以上に地球環境への負荷に配慮した製品、サービスを提供してまいります。



品質管理部 副部長
花光 辰美

風力発電・太陽光発電設置について

2010年1月に完成したエンジニアリングセンターの屋上に12kWの太陽光発電パネルを設置し、再生可能エネルギーの活用を開始しました。この太陽光発電による年間発電量は1.1万kWh、CO₂削減量は7.6トンを見込み、工場内のパソコン用液晶モニター約350台分を賄うことができます。

また同センターの屋上には当社が世界で初めて開発した待機電力不要の「CCレス方式」の発電装置を組み込んだ風力発電機も設置しました。当社は本装置のフィールドデータを収集・分析しながら、より高効率の発電システムを研究開発し、低炭素社会の実現に寄与する環境技術の提供に努めてまいります。



働きやすい職場環境の整備

従業員一人ひとりが「働きがい」と「誇り」を持って自分の仕事に取り組めるよう、安全で働きやすい職場環境づくりを進めています。

安全で働きやすい職場づくりへの取り組み

安全衛生の取り組み

当社では、「安全衛生委員会」を設置し、安全ルールの遵守と安全意識の向上を図り、労災を発生させない職場づくりを目指して活動しています。また、火災や地震等の不測の事態に備えて、各事業所において「自衛消防隊」を組織し、定期的に消防訓練や避難訓練を実施することにより防災意識を醸成し、従業員の安全を確保する体制を敷いています。

ワーク・ライフ・バランスの実現

ワーク・ライフ・バランス実現に向けた労使協議の場として、「時間管理適正化委員会」を設置し、業務効率向上のための働き方改革、時間外勤務の削減を主要課題に事業所単位で取り組んでいます。事業所毎にノー残業デーを定め、プライベートタイムの充実支援を推進しています。

多様な働き方への取り組み

個々のライフステージに対応した柔軟な働き方について、労使で定期的に協議の場を設置しています。現在は、仕事と育児の両立支援策を中心にその具現化を図るべく、諸施策を検討しています。

育児・介護休業制度の紹介・社内手続き方法等をまとめたガイドブックの発行、短時間勤務者への柔軟な勤務対応等を実施しています。



育児休業・介護休業
ハンドブック

人材育成

自ら学び、一人ひとりが高い専門性を身につけたプロフェッショナルな人材育成を目指します。

当社の経営理念・行動指針を理解し実践出来る社員を育成するため、社員の個性を生かし能力とやる気を引きだし、一人ひとりのスキルを実践を通して高める人材育成を行っています。また、「技術の東洋」として自らの「技」を磨き、プロフェッショナルな人材を育成します。

当社の人材育成にあたり、求め育成する社員は次の基本方針から生まれています。

東洋電機製造 人材育成方針

- 経営理念・行動指針を理解し実践する人材
- 一人ひとりがプロフェッショナルとして高い専門性を備えた人材
- 社員が自ら学び、成長する教育(自己啓発)の機会を提供

教育・研修は以下の4つの方法により実施します。



教育・研修の主な実施内容は以下URLに詳細を掲載しています。
http://www.toyodenki.co.jp/html/rec_kyouiku.html

活力ある企業風土づくりへの取り組み

中期経営計画「チャレンジアッププラン」に掲げた「活力ある企業風土づくり」の一環として、全従業員での「ディスカッション」を本社・支社・支店・営業所・生産拠点で計105回開催し、派遣社員やパート社員等も含め791人の従業員が参加しました。これらのコミュニケーション活動の中で、会社の目指すべき方向や様々な課題について、活発な意見交換を行いました。



ディスカッション風景

社会貢献活動

当社は本業を通じた社会への貢献はもとより、地域社会とのつながりを重んじ、次世代育成のために様々な活動をしています。

● 地域社会への貢献

環境出前講座の実施

当社は2008年から、横浜市が実施する「環境出前講座」に参加し、市内の生徒・学生向けに「鉄道のエコ、鉄道でエコ」をテーマとした講座を開催しています。

横浜市は当社創業の地であり、また日本で初めて鉄道が開通した都市でもあります。このように地域に密着した社会貢献活動を通じて、次世代を担う子どもたちに環境問題への気づきと実行のきっかけを提供してまいります。



講座風景

教育機関への講師派遣

国立大学法人北見工業大学からの依頼により、2009年10月に当社研究センター長の中村雅憲（工学博士）が

「日本産業界を支える回転機の現状と将来」をテーマに、大学生3年生向けに講演を行いました。今後も当社はモータードライブ技術のパイオニアとして、長年にわたって蓄積してきた技術と知識を若い世代に伝え、科学教育の振興へ貢献したいと考えています。



中村研究センター長による講義

「よこはま協働の森基金」への協力

横浜製作所エンジニアリングセンターに設置している自動販売機の売上の一部を基金に寄附し、横浜市が中心となって活動している小規模樹林地の保全活動に協力しています。

CLOSE UP ▶▶▶

自社製品を活用したエネルギーの「見える化」について ～東洋ワイヤレス計測システム～

「東洋ワイヤレス計測システム」は、工場やオフィスビル・各種設備を対象として簡単・手軽に電流・電力・温度等の計測を行えるシステムです。

電流センサ・電力センサにおけるバッテリーレスと、センサ～受信ユニット間のワイヤレスを実現することにより、設置のための電気工事を大幅に削減できます。



バッテリーレスセンサの設置状況

当社は2010年1月に完成した「エンジニアリングセンター」の各階にシステムを設置し、1階展示室のPCで消費電力が分かる「見える化」に取り組んでいます。また、名古屋支社（オフィスビルに入居）と滋賀工場にもシステムを設置し、省エネに活用できるデータ収集を行っています。



IT事業部
IT事業企画グループ
鶴田 裕紀



社会を支える製品と技術



当社は4つの事業分野で、安全・安心な社会の基盤づくりと持続的な発展に貢献しています。

● 環境技術とIT技術を融合させた製品とシステム

交通事業

当社は鉄道車両用電機品のリーディングカンパニーとして、優れたエレクトロニクス技術とモータドライブ技術を活かし、鉄道の発展を支えています。



パンタグラフ



主電動機(モータ)



TD継手



駆動装置



採用例：N700系新幹線



鉄道用電力貯蔵装置 E³ソリューションシステム

IT事業

先進的で使いやすい駅務機器のほか、遠隔監視システムなどの高度な通信技術を応用したIT製品の開発も進めています。



ICカードチャージ機



定期券発行機



車内券発行機



遠隔監視端末
μTOP



東洋ワイヤレス
計測システム

産業事業

地球環境保全への取り組みの一環として、より効率で省資源な産業用モータやインバータ等の開発に積極的に取り組んでいます。



永久磁石型
同期電動機(EDモータ)



インテリジェントインバータ
VF66シリーズ



自動車開発用試験機



採用例：シャフトレス新聞輪転機

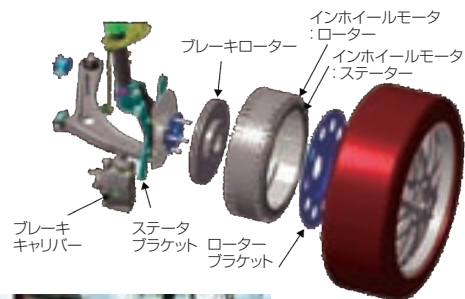


採用例：バイオマス発電機

EVシステム

様々な分野で応用可能なEVシステムに加え、次世代型電気自動車向け「インホイールモータ」の開発にも挑戦しています。

次世代型電気自動車向けインホイールモータ



ブレーキ
キャリア

ステータ
ブラケット

ローター
ブラケット

インホイールモータ
：ローター

インホイールモータ
：ステータ



展示会出品